

氏名	宮 池 次 郎
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博乙第 3726 号
学位授与の日付	平成 14 年 6 月 30 日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第 4 条第 2 項該当)
学位論文題目	Regulation of circulating immune complexes by complement receptor type 1 on erythrocytes in chronic viral liver diseases (慢性ウイルス性肝疾患における赤血球 complement receptor type 1 による血中免疫複合体の制御)
論文審査委員	教授 中山 睿一 教授 加藤 宣之 教授 山田 雅夫

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

【背景と目的】 Complement receptor type 1 (CR1)は膜貫通型の糖蛋白質であり、赤血球 CR1 (E-CR1)は、血中免疫複合体(IC)の細網内皮系組織への運搬に関与している。慢性ウイルス性肝炎における、IC 制御の機序は十分に解明されていない。【対象と方法】慢性ウイルス性肝疾患患者 149 人と健常人 64 人の IC, E-CR1, CR1 遺伝子多型を解析した。【結果】肝疾患全例あるいは慢性肝炎において、IC と E-CR1 は負の相関を示した。さらに C 型慢性肝炎では、CR1 低発現遺伝子多型のホモ型において IC 値が有意に高値を示した。また C 型慢性肝炎と肝硬変では健常人に比べて E-CR1 が有意に低値であった。C 型慢性肝炎では、CR1 遺伝子多型を考慮しても E-CR1 が低値であった。【結語】慢性ウイルス性肝疾患、特に C 型慢性肝炎において、E-CR1 は IC の血中からの除去に重要な役割を果たしており、E-CR1 の低下が後天的な現象であることを示した。

論 文 審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、慢性ウイルス性肝疾患における血中免疫複合体 (IC) について赤血球補体結合レセプター CR1 (E-CR1) による制御を検討したものである。この結果、慢性ウイルス性肝疾患、特に C 型慢性肝炎において、E-CR1 が血中 IC の除去に重要な役割を果たしていることを明らかにした。この知見は、慢性ウイルス性肝疾患の病態解明に重要であり、価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。